

2024 6・7・8

展示案内 — vol. 777

東京国立博物館 ニュース

TOKYO NATIONAL MUSEUM NEWS



今号のイチ推し!

↑ 桃太郎

しまし
た!
リニ
ュ
ー
ア
ル

【新連載】

コラム

東博のお仕事

東京国立博物館ニュースがリニューアルしました

東京国立博物館ニュース（以下、ニュース）は本号よりデザインを一新し、総合文化展をはじめ、当館の自主企画事業に焦点をあてた内容を12ページでお届けします。また、過去の掲載でもっと詳しく読みたいとのご感想が多かったコラムはスペースを拡大しました。そして、当館のウェブサイトでご覧いただける従来のPDF版に加え、新たに専用ページも設け、

スマートフォン、タブレットでより読みやすくなりました。

これまでご愛読いただいている皆様や、今号で初めてご覧いただく方にも、引き続き文化財の魅力や東京国立博物館の楽しさをお伝えしてまいります。

リニューアルしたニュースを今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



東京国立博物館ニュース



じゅうこつざんぺん
獣骨残片

縄文時代(晩期)・前1000～前400年
千葉県野田市 山崎貝塚出土
猪骨・鹿骨製
中澤澄男氏寄贈

縄文人が生きるために食料だけでなく、道具の材料にもした猪や鹿の骨

ないとうれい
内藤礼

生まれておいで 生きておいで

平成館企画展示室、本館特別5室、本館1階ラウンジ
6月25日(火)～9月23日(月・休)

美術家・内藤礼の作品を見たことがあっても、内藤が選ぶ考古遺物を見たことがある方はいないのではないのでしょうか。本展は内藤の作品とともに、内藤が東博の膨大な収蔵品のなかから選んだ縄文時代の考古遺物も出品します。平成館考古展示室でおなじみの足形付土製品もありますが、当館の長い歴史のなかで今回初めて展示されるものもあります。選択した意図を考えることで、これまでとは違った視座で内藤作品とより深く向き合えるのではないかと考えています。その一方で、本展は考古学者とは違った考古遺物の見方にふれ、新たな魅力に気がつききっかけにもなるでしょう。(品川欣也)

本展はエルメス財団と共同で企画したもので、9月7日(土)から2025年1月13日(月・祝)まで銀座メゾンエルメスフォーラムで開催される同作家個展との連携企画です。

観覧料：一般1,500円(1,400円)、大学生1,000円(800円)

※()内は前売料金 ※前売券は6月24日(月)まで、オンラインチケット等で販売。

※詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。※東京国立博物館キャンパスメンバーズ会員の学生の方は、当日券を500円でお求めいただけます。

https://www.tnm.jp/modules/r_free_page/index.php?id=2637

あしがたつきどせいひん
◎**足形付土製品**

縄文時代(後期)・前2000～前1000年
新潟県村上市 上山遺跡出土

死んだ子どもの形見としてつくられたとも考えられている土製品



橋本コレクション受贈記念 明代宮廷絵画と浙派

東洋館8室 7月17日(水)～8月18日(日)



はくようずじく
柏鷹図軸

辺文進筆
中国 明時代・15世紀
橋本末吉氏・橋本太乙氏寄贈
展示期間：7月17日(水)～8月4日(日)

大きな鷹が、鋭い目つきで辺りを見まわしています。明を代表する花鳥画家、辺文進の傑作です

ちくせきずじく
竹石図軸

朱端筆 中国 明時代・16世紀
橋本末吉氏・橋本太乙氏寄贈
展示期間：8月6日(火)～8月18日(日)

朱端は皇帝に特に寵愛された宮廷画家です。本作は風に揺れる竹を迫力いっぱい描いた、その代表作です



(部分)

橋本末吉(1902～91)氏の収集した中国絵画コレクションは、「浙派」と総称される明の職業画家や明末清初の奇想派、采画画家(江戸時代に日本に滞在した清の画家)、近現代画家の優品を多く擁することで世界的に有名で、20世紀における中国絵画史研究の進展に大きな影響を及ぼしたと評価されています。

当館は橋本コレクションをお預かりして展示公開してきましたが、このたび、その一部をご寄贈いただきました。橋本末吉氏のお眼鏡にかなった名品の数々をお楽しみください。

(植松瑞希)

吉野と熊野 —山岳霊場の遺宝—

本館14室 5月28日(火)～7月15日(月・祝)

紀伊山地に位置する吉野と熊野は、ともに日本を代表する山岳霊場として知られており、平成16年(2004)には「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部として世界文化遺産に登録されました。それから20年目を迎える本年、当館が所蔵する那智山経塚出土品、金峯山経塚出土品のコレクションに、吉野・大峯信仰の拠点である奈良・大峯山寺所蔵の大峯山頂出土品を加えて、これらを一堂に展覧し、修験道の生み出した特色ある造形の世界をご紹介します。(清水健)

動き出しそうな ユーモラスなポーズ

銅板鎚出蔵王権現像
平安時代・12世紀
奈良県吉野郡天川村金峯山出土
修験道で尊崇された蔵王権現の姿を銅板に浮彫状に表しています



立体で表した 密教の世界

無量寿如来像
平安時代・12世紀
和歌山県東牟婁郡那智勝浦町那智山出土
北又留四郎氏他2名寄贈
金剛界曼荼羅を立体的に表した稀有な遺例のうちの主要な一尊です



阿弥陀如来のすがた

本館特別1室 5月21日(火)～7月7日(日)

苦しみに満ちたこの世から救われたい。いつの時代にもある切実な願いですが、日本では阿弥陀如来がその期待を受け、時代を通じてさまざまな信仰がありました。本特集では、館蔵・寄託品のうち彫刻作品を中心に展示します。著名な法隆寺金堂壁画の第六号壁の模本から、鎌倉時代に流行した三尺(約1メートル)の阿弥陀立像まで、特別展「法然と極楽浄土」(6月9日(日)まで)とあわせて、人びとがすがった阿弥陀様の姿をご覧いただければ幸いです。(西木政統)

焼失した壁画の様子を今に伝える

法隆寺金堂壁画(模本)第六号壁
桜井香雲筆 明治17年(1884)
原本：飛鳥時代・7～8世紀
奈良・法隆寺蔵
火災による焼損前の姿を明治時代に写した貴重な模本です



(部分)



阿弥陀如来を実感 させる技法をこらす

阿弥陀如来立像
鎌倉時代・13世紀

事前調査のX線CT撮影により、さまざまな技法上の工夫が明らかになりました(→10ページ)

没後100年・黒田清輝と 近代絵画の冒険者たち

本館特別1・特別2室
8月20日(火)～10月20日(日)

栗拾い
黒田清輝筆 大正6年(1917)



江戸時代の図譜文化

—堀田正敦編 『禽譜』とその魅力

本館15室
8月6日(火)～10月6日(日)

禽譜 水禽2
堀田正敦編 江戸時代・18～19世紀 (部分)
展示期間：8月27日(火)～9月16日(月・祝)



東洋館

あでやかな色彩、
明代に華ひらいた漆工技術

楼閣人物漆絵螺鈿長方形箱

〔庚辰〕銘 中国 明時代・崇禎13年 (1640)

7月2日(火)～9月29日(日)

9室 中国の漆工

中国の漆工は、明時代の半ばになって新たな展開を迎えます。多色の漆を用いる彫彩漆や存星という技法が行われ、漆器の意匠がカラフルに華やぎました。本作品も、そのような時代の好尚のなかで製作されたように考えら



れます。色漆と螺鈿を併用して、蓋表には楼閣人物図、側面には花鳥図が表されており、ちょっとした絵画のような趣を呈しています。底部に〔庚辰〕銘があり崇禎13年(1640)の製作と考えられています。(猪熊兼樹)

多くの信仰を集める、
蓮の上に座った幸福の女神

マハーラクシュミー ジャイプル派
インド 19世紀前半

6月4日(火)～6月30日(日)

13室 インドの細密画 ヒンドゥー教の神々

ラクシュミーは富、幸運、愛、美、喜び、繁栄などを司る女神です。マハーは「偉大な」という意味です。日本ではむしろ仏教の女神、吉祥天として親しまれています。



インドではヒンドゥー教の神ヴィシュヌの妻とされ、4本の腕を持ち、大きな蓮の上にいる姿に表されます。また、神話の時代からずっと、毎年秋、ラクシュミーのために、ディーワーリーという光の祭りを行っています。今でもラクシュミーは篤く信仰されていることがわかります。

(勝木言一郎)

本館

甲冑の魅力を
最新の鑑賞環境で堪能

白糸威二枚胴具足

江戸時代・17世紀
徳川義寛氏寄贈

～7月15日(月・祝)

5・6室 武士の装い



徳川家康の九男で尾張徳川家の初代・徳川義直が、大坂の陣(1614～15)で用いたと伝わる甲冑です。胴と袖は銀色の小札(小さな短冊上の板)と白色の組紐を組み合わせたものです。兜は通天冠という中国の冠を模した変わり兜で、仏具の如意形の前立を飾っています。日本の甲冑の特質である、実用的な機能性と人目を引く装飾性、そして武将としての象徴性を具現化した造形が見どころです。今年3月に導入した新しい展示ケースで、実物の迫力を存分にお楽しみください。(佐藤寛介)

王家から託された
格調高き祈りの意匠

神扇 かみ おうぎ
奄美大島 第二尚氏時代・19世紀
大和良子氏寄贈

7月9日(火)～8月18日(日)

16室 アイヌと琉球

神扇とは、祭祀を執り行うノロが用いる大形の扇です。ノロとは琉球王府から任命された女性の祭司のことです。この扇は「アムシラレの扇」という名で伝えられており、アムシラレとは地域のノロを統括する上級のノロ(オヤノロ)のことを指します。表面の中央に日輪、その左右に鳳凰や瑞雲を配置し、裏面の中央に月輪、その左右に牡丹や蝶を極彩色で描いています。黄色地に描か



れる鳳凰や瑞雲の意匠は、王家伝来の意匠にも通じるものです。(山本亮)

黒田記念館

習作を重ねた
光と向き合う試行の日々

編物

黒田清輝筆 明治23年(1890)

7月2日(火)～9月29日(日)

黒田記念室



窓際に腰掛け、針を動かす女性。雨戸のすき間から漏れる光が、手元を覗き込む女性の顔や衣装に陰影をつけています。舞台となったグレー＝シウル＝ロワンで、黒田は針仕事をする女性を繰り返し描き、室内でのさまざまな光の表現に取り組みました。この作品は随所に素早いタッチが見られ、比較的小さな作品であることから、スケッチとしての意味合いが強いように見えます。モデルは、同地で黒田が出会ったマリア・ビヨーであると考えられています。

(東京文化財研究所・吉田暁子)

法隆寺宝物館

日本特有の表現で織りなす
大陸由来の人物文様

狩獵文錦褥

奈良時代・8世紀

7月2日(火)～7月28日(日)

第6室

染織 古代の敷物 さまざまな褥一

「褥」とは机の上に敷く敷物のことです。この作品はイグサを編んだ藺筵を白い麻布で抱んで芯とし、表面に錦をあてます。多色の絹糸を用いて文様を織り出す錦ですが、この作品では萌黄と黄色の2色で文様を織り表しています。馬上で振り返り今にも獣を射ろうとする人物像はササン朝ペルシャで流行し、その後、中国・唐でも織られるようになりました。2色のシンプルな色遣い、ペルシャや中国とは異なる文様表現は日本に伝わるまでの時空を感じさせます。

(沼沢ゆかり)



(部分)

平成館

曲線的な造形美と調和する
幾何学的文様

注口土器

縄文時代(後期)・前2000～前1000年
東京都板橋区 小豆沢貝塚出土
後藤守一氏寄贈

通年展示

考古展示室



縄文時代には、煮炊きに用いる深鉢形土器を中心としつつ、多様な土器が用いられました。本作品は、液体を注ぐために用いられたと考えられる注口土器です。算盤玉形の胴部や籠状の把手を持つ注口土器は、縄文時代後期の関東地方で流行しました。胴部の装飾には、縄目のある箇所とこれを磨り消した箇所との対比で文様を際立たせる磨消縄文の手法が用いられており、縄目のある帯状の区画により三角形に区切られています。複雑な器形と幾何学的な文様がひとつの土器に共存する、造形に富んだ逸品です。

(菊池望)

開創1150年記念

特別展「旧嵯峨御所 大覚寺
—百花繚乱 御所ゆかりの絵画—」

2025年1月21日(火)～3月16日(日)

安土桃山～江戸時代の狩野山楽らによる豪華華麗な障壁画約100面を中心に、京都・大覚寺が誇る寺宝を一堂にご紹介します。



牡丹図

狩野山楽筆
江戸時代・17世紀
京都・大覚寺蔵

挂甲の武人 国宝指定50周年記念

特別展「はにわ」

10月16日(水)～12月8日(日)

国宝「埴輪 挂甲の武人」をはじめ、全国各地から選抜された埴輪が空前の規模で集結。その魅力を余すことなくお伝えします。



埴輪 挂甲の武人

古墳時代・6世紀
群馬県太田市飯塚町出土

(部分)

創建1200年記念

特別展「神護寺

—空海と真言密教のはじまり—

7月17日(水)～9月8日(日)

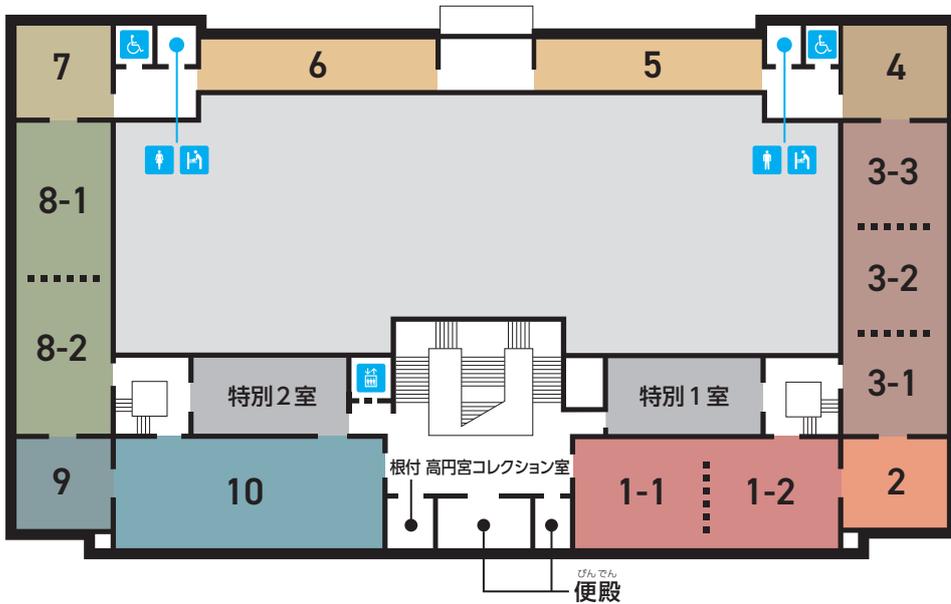
空海ゆかりの国宝「両界曼荼羅(高雄曼荼羅)」をはじめ、神護寺に受け継がれる至宝をご紹介します。



釈迦如来像

平安時代・12世紀
京都・神護寺蔵
展示期間：8月14日(水)～9月8日(日)

特別展紹介(平成館特別展示室)



- 男性トイレ
- 女性トイレ
- ベビーベッド
- 多目的トイレ
- エレベーター

本館めぐり

日本美術の流れ

2階



2 国宝室

6/11(火)-7/7(日)

●善無畏像
平安時代・11世紀
兵庫・一乗寺蔵

8/6(火)-9/8(日)

●六道絵(畜生道)
鎌倉時代・13世紀
滋賀・聖衆来迎寺蔵

仏教の説く六道のうち、動物に生まれ変わった際の苦しみを描く一幅です

1-2 仏教の興隆

一飛鳥・奈良

-7/15(月・祝)

観音菩薩立像
飛鳥時代・7世紀
和歌山県東牟婁郡那智勝浦町那智山出土
北又留四郎氏他2名寄贈

-10/6(日)

銅製骨蔵器
奈良時代・8世紀
奈良県宇陀市大宇陀拾生字城山出土

銅製の骨壺で、蓋が開かないように縛った痕が表面に残ります

1-1 日本美術のあけぼの

一縄文・弥生・古墳

-6/30(日)

壺
弥生時代(後期)・1~3世紀
愛知県名古屋市長瑞穂遺跡出土

7/2(火)-12/22(日)

馬形埴輪
古墳時代・6世紀
群馬県大泉町出土

馬形埴輪は、乗馬の風習の広がりや古墳時代の馬装を伝えます

3-2 宮廷の美術

一平安~室町

7/2(火)-8/18(日)

源氏物語図扇面(御法)
室町時代・16世紀

源氏物語を描いた扇面画。紫の上の死の直前の様子を描く御法の場面です

書跡

-6/30(日)

古今伝授書
飯尾宗祇筆
室町時代・15世紀

3-1 仏教の美術

一平安~室町

-6/30(日)

摩尼宝珠曼荼羅図
鎌倉時代・14世紀

3-3 禅と水墨画

一鎌倉~室町

7/2(火)-8/18(日)

◎山水図
岳翁藏丘筆、天隠龍沢賛
室町時代・15世紀
松永安左工門氏寄贈

景物を巧みに重ね合わせることで、画面の奥へ奥へと視線を誘います

しし色紙

-6/30(日)

策彦周良筆
室町時代・16世紀

7/2(火)-8/18(日)

真言八祖像
鎌倉時代・正和3年(1314)

宮廷絵師が描いた可能性が高い、鎌倉時代の真言八祖像の基準作です

7 屏風と襖絵

—安土桃山～江戸

7/2(火)-8/18(日)

◎山水図屏風

狩野探幽筆
江戸時代・17世紀
西脇健治氏寄贈



(左隻)

俳諧師としても著名な蕪村の代表作のひとつ。诗情あふれる作品です



(右隻)

-6/30(日)

◎山野行楽図屏風

与謝蕪村筆
江戸時代・18世紀

4 茶の美術

-7/15(月・祝)

古染付高砂手花入

中国・景德鎮窯
明時代・17世紀

日本からの注文を受けてつくられた花入。耳部は鯉の形をしています



7/17(水)-10/6(日)

青磁鉢

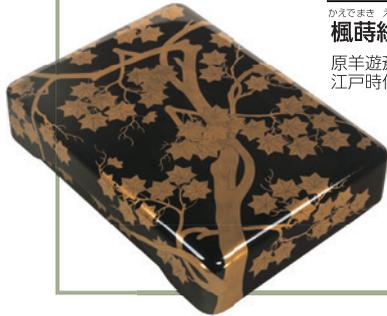
中国・龍泉窯
南宋～元時代・13世紀
広田松繁氏寄贈

8-1 暮らしの調度 —安土桃山・江戸

7/17(水)-10/6(日)

楓時絵文庫

原羊遊齋作
江戸時代・19世紀



原羊遊齋は江戸時代後期を代表する時絵師。楓の枝葉は箱内側まで続きます



-7/15(月・祝)

蟻通宮透鞘形印籠

杉浦兼意作
江戸時代・18世紀

5・6 武士の装い

—平安～江戸

7/17(水)-10/6(日)

肩脱二枚胴具足

安土桃山～
江戸時代・16～17世紀

裸で戦う荒武者を思わせる奇抜な造形と華やかな色彩が見どころです



8/27(火)-10/20(日)

陣羽織

茶地題目文字模様紙子

安土桃山時代・16世紀



8-2 書画の展開 —安土桃山～江戸

絵画

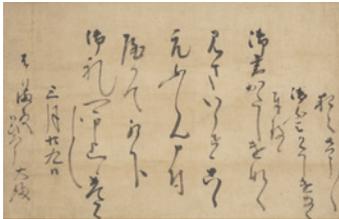
-6/30(日)

◎松巒古寺図

田能村竹田筆
江戸時代・天保3年(1832)頃
竹田が生涯の友・頼山陽の依頼で制作し、共通の友人である青木木米に贈った代表作です



書跡



7/2(火)-8/18(日)

書状(はりま宛) 徳川家康筆 江戸時代・慶長16年(1611)

10 浮世絵と衣装 —江戸

衣装

-6/23(日)

小袖 白茶縮緬地
桐石畳模様

江戸時代・18世紀

奇抜な石畳模様に踊り桐模様を大胆に散らした小袖は、若い男性の衣装でしょうか



6/25(火)-8/25(日)

帷子 淡紅麻地
幕藤文字模様

江戸時代・18世紀

藤の花を詠んだ和歌を文字模様にしたおしゃれな夏の衣装



浮世絵



7/9(火)-8/4(日)

金魚づくし・さらいとんび

歌川国芳筆
江戸時代・19世紀

8/6(火)-9/8(日)

月下砧打美人図

葛飾応為筆 江戸時代・19世紀
満月の下で砧を打つ女性。葛飾北斎の娘、応為が描いた肉筆の浮世絵です



9 能と歌舞伎

-6/23(日)

◎能面 瘦男

「児玉近江」焼印
江戸時代・17～18世紀
奈良・金春家伝来



生前の行いに対する妄執にとらわれ、地獄をさまよう男性の霊の表情です

6/25(火)-8/25(日)

肩衣 藍麻地鳥居杉木立模様

江戸時代・19世紀

下男役の太郎冠者は、滑稽な役にふさわしい大胆な染模様の肩衣を着けます





本館めぐり

ジャンル別展示

1階

13-1 金工



-7/21(日)

累座広口釜

芦屋 室町時代・天文3年(1534)

仏前に据える香炉であったものを後世に茶の湯釜に改装した品です

7/23(火)-9/29(日)

金銅臥牛香炉

江戸時代・17世紀



12 漆工



6/4(火)-9/1(日)

扇面塩山時絵料紙箱

室町時代・15世紀

千鳥の絵に「さしでのいそ」の文字。和歌を主題としています



6/4(火)-9/1(日)

住吉時絵硯箱

室町時代・16世紀

11 彫刻

7/9(火)-9/29(日)

如意輪観音菩薩坐像

鎌倉時代・13世紀



7/9(火)-12/1(日)

◎大日如来坐像

平安時代・11～12世紀

密教で最高位の仏の大日如来。細身の体つきは平安時代後期の特色です



13-2 刀剣

-8/25(日)

●刀 相州貞宗(名物 亀甲貞宗)

相州貞宗 鎌倉～南北朝時代・14世紀 渡邊誠一郎氏寄贈

相州貞宗の傑作。享保名物帳所載の名物刀剣で徳川将軍家などに伝来しました



6/4(火)-9/1(日)

◎巴透鐺

信家 安土桃山時代・16世紀

13-3 陶磁

6/4(火)-9/1(日)

染付山水人物文大壺

伊万里 江戸時代・17世紀

輸出向け伊万里焼の早い時期につくられた一作。中国磁器が意識されています



6/4(火)-9/1(日)

織部洲浜形手鉢

美濃 江戸時代・17世紀 藝進氏寄贈



16 アイヌと琉球

アイヌ

-7/7(日)

ぼん
盆
樺太アイヌ 19世紀
農商務省
北海道事業管理局寄贈



琉球

7/9(火)-9/23(月・休)

チューカー (色絵線刻丸文水注)

沖縄本島 壺屋焼
第二尚氏時代・18世紀末～19世紀
河原田盛美氏寄贈

「茶家」もしくは「酒家」とも書く、酒や茶を注ぐための器です



15 歴史の記録

6/11(火)-8/4(日)

うち やま えい きゅう し おき びみ
内山永久寺置文
鎌倉時代・14世紀



特集 江戸時代の図譜文化 (巻頭)
—堀田正教編「禽譜」とその魅力—(→3ページ)

8/6(火)-8/25(日)

禽譜 水禽1

堀田正教編
江戸時代・18～19世紀

江戸時代、大名、医師、絵師たちが絵を寄せて作成された鳥の図鑑です



(部分)

14 特集

吉野と熊野
—山岳霊場の遺宝—
(→3ページ)

-7/15(月・祝)

銅錫杖頭

奈良時代・8世紀
和歌山県東牟婁郡
那智勝浦町那智山出土
北又留四郎氏寄贈



人間国宝・平田郷陽の人形
—生人形から衣裳人形まで—
(→11ページ)

7/17(水)-9/1(日)

抱擁

二代平田郷陽作
昭和41年(1966)
平田多恵子氏寄贈



18 近代の美術

7/2(火)-8/4(日)

孔雀

滝和亭
明治25年(1892)
シカゴ・コロンブス世界博覧会
事務局寄贈

明治26年(1893)にシカゴ
で開催されたコロンブス万
国博覧会に出品された作
品です



8/6(火)-9/16(月・祝)

地獄極楽図

河鍋曉齋筆
明治時代・19世紀



17 保存と修理

この展示室では、「展示や収蔵の環境整備」「状態調査と分析」「傷んだ作品への修理」の3つのテーマを設け、当館での保存と修理の取り組みについてご紹介しています。さまざまな事例をご覧くださいことで、保存修復事業に一層のご理解をいただければ幸いです。保存と修理について知ると、作品の見方が少し変わるかもしれません。



17室の様子

ミュージアムショップ

当館の出版物をはじめ、収蔵品をもとにデザインしたミュージアムグッズを販売しています。

やっほしまきえらでんすずりばこかんり
八橋時絵螺鈿硯箱缶入クッキー
1,080円(税込)

本物らしさにこだわって開発された
ロングセラー商品です。持ち帰ること
ができる名品です



当館オリジナルの手拭いは全40種類以上。
初夏にぴったりな柄もご用意しています

手拭い

(左から)「朝顔狗子図(青)」1,430円(税込)、
「ゆりの木」1,760円(税込)、
「国宝 片輪車時絵螺鈿手箱(水色)」1,430円(税込)



19 みどりのライオン

体験コーナー (教育普及スペース)

この部屋には、収蔵作品の素材や技法を触って感じられる「本館の案内図」や、3Dの作品画像を自由に動かせる「トーハクをまわそう」など、全部で5つの体験コーナーがあります。日時によってはボランティアがいますので、コーナーでわからないことがあれば質問もできます。体験した後は、ぜひもういちど展示室をめぐってみてください。きっと新しい発見があります。観覧の合間にひと休みしながらお楽しみください。



19室の様子

文化財を災害から守る

このたびの令和6年能登半島地震により亡くなられた方々に哀悼の意を表するとともに、またご遺族の皆様、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

独立行政法人国立文化財機構では、文化財防災センターが事務局となり、令和6年能登半島地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）および令和6年能登半島地震被災建造物復旧支援事業（文化財ドクター派遣事業）を進めています。



一時保管場所に保管された文化財

文化財レスキュー事業では、被災した美術工芸品をはじめとする動産文化財の廃棄・散逸を防止するため、救出・応急措置・一時保管を実施しています。現在、金沢市および能登町に設置した現地本部を拠点として、被災状況調査や救出活動の計画立案・進捗管理を行い、あわせて救出した文化財の保管場所の整備を進めています。

文化財ドクター派遣事業では、文化財建造物の応急措置及び復旧に向けた技術支援の一環として、文化財建造物の被災状況調査を進めています。なお、両事業の実施にあたっては文化庁、被災自治体、関係機関と緊密に連携しています。

（黄川田翔）



文化財防災センター



保管場所として使用するための清掃、整理作業

新連載

東博のお仕事

1 調査研究

博物館の活動は、展示や催し物、文化財の調査研究や保存、情報アーカイブなど、多岐にわたります。当館の多様な活動に関わる人たちの仕事を、さまざまな角度からご紹介します。



西木 政統
登録室主任研究員（日本彫刻）

4才児の子育てと仕事の両立を目指して奮闘中。

肉眼では見えない、 仏像の内部を読み解くCT撮影

博物館の使命のひとつに、収蔵品の調査研究があります。その手法には科学分析も取り入れており、たとえば立体作品なら、さまざまな物質を透過するX線を用いたCT撮影が有効です。

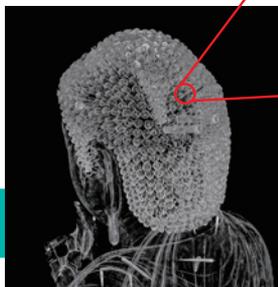
この阿弥陀如来立像は、螺髪と呼ばれる髪の毛が、木に燃った針金を巻いて1粒ずつ植つけられること、後頭部には金属板を丸めた筒が2本埋め込まれることが、特集展示（→3ページ）の事前調査でわかりました。後頭部の筒は、かつて支柱を使わずに光背をつけるために埋め込まれたのでしょうか。足裏に仏の特徴である文様を描くことでも知られますが、あわせて仏の实在感を演出する工夫とみられます。螺髪に針金が用いられる点はすでに指摘がありますが、CTではより明瞭に観察できます。



X線CTの撮影風景



螺髪（針金部分）の拡大画像



X線CT画像作成：宮田将寛

頭部のX線CT画像

おとぎ話で有名な桃太郎。
勇ましさが伝わってくる生き生きとした姿です。



桃太郎 二代平田郷陽作 大正13年(1924) 平田多恵子氏寄贈

2024年6・7・8月号

今号のイチ押し! 桃太郎

7月17日(水)～9月1日(日) 本館14室

(特集 人間国宝・平田郷陽の人形—生人形から衣裳人形まで—)

鋭い観察眼と表現力、創作人形における伝統と革新

大きな桃の実が真っ二つに割れて飛び出した赤ん坊。おとぎ話でおなじみの桃太郎、誕生の場面を人形で表しています。鬼退治に出かける英雄としての運命を生まれた時から担っていたかのように、力強く見栄を切っています。この人形は木彫して胡粉を塗った後に彩色し、肌に艶が出るように秘伝の技法で磨かれ、髪の毛は一本一本絹糸で毛植えしており、実は、江戸時代から続く伝統的な日本人形の技術で制作されています。

作者の父、初代平田郷陽は有名な生人形師・安本亀八の弟子でした。その跡を継いだ二代郷陽もまた、生人形師として修行しました。生人形とは、日本の伝統的な人形制作の技法を用いて、まるで生きているかのような写実性を追求した人体造形です。江戸時代末期には、リアリズムを追求した生人形が見世物として展覧され、明治期以降は、日本の歴史風俗を紹介するために万国博覧会などで展示されました。

郷陽が21歳の時、父が急逝し、1924年に二代郷陽を

継いで人形師として独立した頃には、主に節句人形を中心に制作をすることで生計を立てていました。「桃太郎」は郷陽の初期の制作で、初節句を迎えた男の子のために詠えた節句人形のひとつでしょう。

この「桃太郎」にも、生人形制作で培われた写実性が現れています。木彫でありながら、肉づきのよい子どもの体形や肌合いには柔らかさや艶やかさが見えます。郷陽は特に、赤子や童子といった幼い子どもを造形することに長けており、遺された資料には、子どもの成長に合わせた実測図(権衡図)や、子どもの細やかな表情を写した写真を貼りつけたスクラップブックがあります。生まれたばかりの赤子の赤い肌の色合い、実際の赤子を写生したかのような体つき、手指足指の表情、頬に見える愛らしいえくぼなどには、リアリズムを創作の原点とした平田郷陽の鋭い観察眼と表現力がうかがえます。当時の人々は、従来とは異なる、まるで人間を映し出したような節句人形を驚きをもって迎えたことでしょう。(小山弓弦葉)

【表紙の作品】抱擁 二代平田郷陽作 昭和41年(1966) 平田多恵子氏寄贈

郷陽の初孫が生まれた年に制作。母親の赤子へのいとおしさが伝わります

INFORMATION

インフォメーション

開館時間

9時30分～17時00分 毎週金・土曜日は9時30分～20時00分 ※8月30日(金)、31日(土)を除く。
黒田記念館は9時30分～17時00分 ※入館は閉館の30分前まで。

6・7・8月の休館日情報

◎6月3日、10日、17日、24日 ◎7月1日、8日、16日、22日、29日 ◎8月5日、19日、26日
※8月13日(火)は総合文化展のみ臨時開館します(神護寺展、内藤礼展は閉館)。

総合文化展観覧料金

一般 1,000円、大学生 500円
障がい者とその介護者各1名は無料。満70歳以上、高校生以下および満18歳未満の方は無料。
特別展等の開館時間、観覧料金は別途ご確認ください。

最新情報は当館ウェブサイト・SNSをご覧ください



東京国立博物館
ウェブサイト

<https://www.tnm.jp/>



X

@TNM_PR



Instagram

@tnm_pr



Facebook

[https://www.facebook.com/
TokyoNationalMuseum/](https://www.facebook.com/TokyoNationalMuseum/)

賛助会のご案内

東京国立博物館の運営趣旨にご賛同いただける方を対象とした寄附会員制度です。
個人様と団体様向けに、それぞれのサービスをご用意しています。



託児サービスのご案内

正門プラザ内託児室にて、託児サービスを実施しています(有料。事前予約制)。当日空きがあれば、予約なし
でご利用いただくことも可能です。7月28日(日)の「トーハクキッズデー」でもご利用いただけます。



「踊る埴輪 & 見返り美人 修理プロジェクト」進捗報告

皆様からのご支援により進められてきた「埴輪 踊る人々」の修理が3月末に
完了しました。修理後の初公開は、挂甲の武人 国宝指定50周年記念 特別
展「はにわ」(→5ページ)を予定しています。なお、「見返り美人図」は本年秋
頃の完了を目指して修理が行われています。進捗状況は当館ウェブサイト
でご紹介しています。



特別展チケットプレゼント

挂甲の武人 国宝指定50周年記念 特別展「はにわ」(→5ページ)の無料観覧券(10組20名様)
をプレゼントします。締切は9月10日(火)必着。*プレゼントの応募方法/はがきに郵便番号、
住所、氏名(ふりがな)、年齢、ならびにこの号で一番おもしろかった記事をご記入のうえ、下記
までお送りください。発表は発送をもって代えさせていただきます。〒110-8712 東京都
台東区上野公園13-9 東京国立博物館 広報室「ニュース6-8月号」プレゼント係

